



写真は難しい、そこがいい

若林 全さん（御堂）

趣

味の登山が写真のきっかけになりました。高校で山岳部を設立し、1年の夏に登った武甲山が最初の登山です。その後、笠山や堂平山など身近な山を登り、少しずつ標高の高い山にも挑戦するようになりました。社会人になってからは、平成2年に「東秩父山の会」を発足し、平成24年5月までの22年間で、職場の先輩方と県内外の有名な登山ルートを練り歩きました。印象に残っている登山ルートは、県内では奥秩父縦走、県外では北アルプス表銀座縦走です。険しい山道を登った先に待っている普段は見られない360度の雄大な景色を見ることにやりがいや達成感を感じます。そのすばらしい山頂の景色や登山中の風景、山にしかない植物を撮影するためにカメラを手に取ったことが写真のきっかけでした。歳をとり登山はできなくなってしまうましたが、私の人生を彩る良い思い出です。



若林さん（前列右から3番目）

ご縁があり私は村内在住と村出身の写真愛好家の方々が加入している「写友会」の会長をしております。主な活動は、年4回の写真を持ち寄った品評会及び春と秋の撮影会です。写友会は平成7年1月に6人の写真愛好家が結成した「東秩父村写真クラブ」が始まりで、私は同年4月に加入しました。在職中は仕事に勤しんでいたので写真撮影をする機会がなかったのですが、平成24年に退職したことを機に村内外に撮影に行くなど本格的に写真を撮るを始めました。カメラで撮影した写真をプリントするとフアインダーを覗いた時とは違うイメージになってしまふところに写真の難しさを感じますが、イメージ通りの仕上がりになるとやりがいや嬉しさを感じますね。歳をとると人付き合いが少なくなるので、写真を通して出会った方々に感謝しています。今では写真が日々の生活の楽しみです。